

【道端の自然】

～ クモの糸 ～

山道を歩いていると、みごとな網が張られています。ジョロウグモ！ ちょうど網に蛾がひっかかったところでした。このクモはまだまだ太るんだろうなあ～

歩くにつれて、光の加減でふっと見えるくらいの細い糸が草にふわっとかかっているのを見えます。まだ網にもなっていません。実はこれ、クモの赤ちゃんが冒険の旅に出た姿なのです。クモの赤ちゃんは生まれてしばらくは集団で過ごします。この「まどい」という時期が過ぎると、子グモたちはそれぞれの新天地を求めて、糸を繰り出します。この糸が風に乗って、届けられたところが新しい自分の場所。餌のあるところへ移動できたでしょうか。

山形のほうではこの糸が風で飛ぶのを「雪



迎え」と呼ぶそうです。キラキラと筋が光ってみえると、いよいよ冬が来るのでしょうか。ドイツではこの糸を「老婦人の夏」というとか。老婦人の白い髪の毛が風で乱れたところを連想してしまいました。

風まかせでどんなところに運ばれるかわからない子どもたち。引っ越し先でしっかりと網を張り、元気に生きていってほしいです。

(小川)

クモの糸がみえるでしょうか？
(昨日の雨で水玉がついています)